

空気膜二重構造ハウス送風機の間断運転法

福島県農業総合センター 浜地域研究所

1 部門名

その他 - その他 - 施設資材

2 担当者

常盤秀夫・水野由美子

3 要旨

空気膜ハウスの二重構造を維持するためには空気圧(内圧)が最低60Pa程度必要であり、送風機を間断運転する場合は、50～60分間ON・30分間OFF程度とする。また、その際、送風機の空気入口フタは、送風時は開け、停止時は閉める必要があることがわかった。

- (1) 空気膜が充分にふくらみ、シワのない状態を維持できる内圧は約60Pa程度であった。
- (2) 最高内圧180Paの状態から送風機を止めて、内圧が60Paに低下するまでの時間は、送風機のフタを閉めた状態で約30分であった(図1)。
- (3) 送風機のフタを開けて送風を開始し、内圧が60Paの状態から最高の約180Paになるまでの時間は約50分であった(図2)。
- (4) 強風時や降雪時は、二重構造の強度が低下したり、雪が落ちにくくなるので、送風機は連続運転とする。

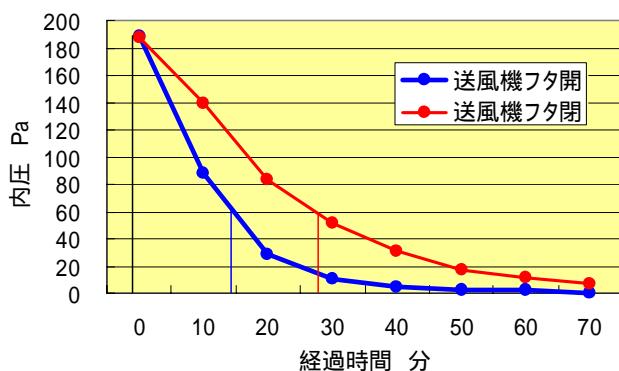


図1 送風機OFF後の空気膜内圧の低下

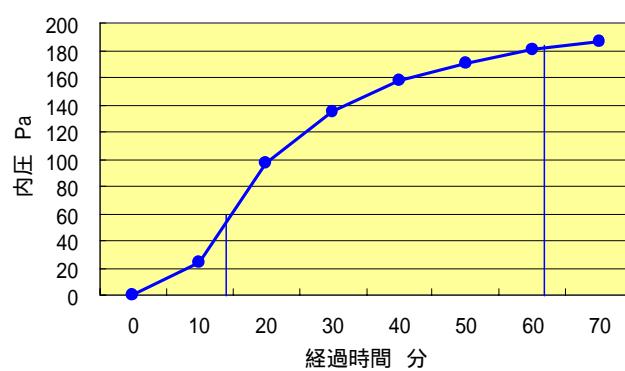


図2 送風機ON後の空気膜内圧の上昇

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成21年度試験成績概要(2009)